

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100206
法人名	有限会社 熊進企画
事業所名	グループホーム 錦ヶ丘
訪問調査日	平成 19 年 9 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 11月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 熊進企画		
事業所名	グループホーム 錦ヶ丘		
所在地 (電話番号)	熊本市錦ヶ丘26番地11号 (電 話) 096-367-0565		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】(19年7月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 コンクリート造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷 金	有(110,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	315 円	昼食 525 円
	夕食	630 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月17日現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.8 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本庄内科・比企病院・山部歯科・パール歯科・済生会熊本病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1階がデイサービス、2階がグループホーム、3・4階が高齢者住宅という多機能性を活かし、ハード・ソフト両面での協力体制で臨まれている。まだ開設1年の新設されたホーム内は明るく、バリアフリーが徹底し、設備面での充実、職員の初期教育も徹底している。入居者個々を尊重し、その人らしい生き方ができるよう、家族からの情報や職員の観察を踏まえ、残存能力を活かした取り組みや生活リハビリを重視しホーム内は車椅子を使用する事無く寄り添いのケアが、入居者の穏やかな生活や柔和な表情となって現れているホームである。安心した「第二の家」として、家族の協力のもと、家庭的で温かいホームが形成されている。運営推進会議も地域の拠点としてのホーム運営に重要な一角を占めている。今後更に地域との関係強化に努められ、地域に密着したホームとなることが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価であり、今回の外部評価を職員・家族等へ開示し、更に質の向上へ繋げていただきたい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を全職員が理解し、開設1年目の区切りとして全職員個々が目標を持って自己評価を行い、会議を経て一つの評価としてまとめている。運営推進会議でも評価の意義やホームでの取り組み状況を説明し、理解を得ている。今後評価の結果も運営推進会議の議題として取り上げ、改善へ向け検討される等、有効に活用されることを期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開設後2ヶ月毎に定期的な運営推進会議が開催されている。2回目以降議題を提示し、課題や目標を持った会議とし、多くの参加を得て活発な意見交換が行なわれ、ホーム運営に反映させている。更に地域の中に根ざす試みとして、会議の中で同法人内の講師による認知症ケアの勉強会が行なわれている。今後は更に地域の話題を取り上げる事や参加者からの要望を受け高齢者虐待・権利擁護・成年後見制度等の勉強会が計画されており、この会議を地域の人々の役立つようにと意欲的な姿勢で臨まれており、大いに期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族は頻りに訪問されており、情報交換が行なわれ、家族との密接な関係や信頼関係を築いている。何でも話し合える関係が構築しており、ホーム運営に反映させている。家族会や運営推進会議も問題提起の場として活用され、意見箱も設置し、意見や要望を収集している。家族への報告は訪問時や毎月の通信紙又電話での随時の連絡等が行なわれ、家族も手紙で様子を窺ったり意見を寄せられており、運営へ反映させるとともに職員の励みとなっている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 1階のデイサービス、3・4階の高齢者住宅という多機能性を発揮し連携した取り組みやボランティアを通じた取り組み、地域の中学校の運動会の見学等々地域との連携を重視した活動が積極的に行なわれている。又地域のリサイクル活動へも参加し、地域の方々との接点としている。自治会長や民生委員等も積極的にホーム運営に参加されており、災害対策の声かけ等が行なわれている。今後更に地域との協力体制の強化に期待したい。

2. 調査結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、「その人らしい生き方が出来るように寄り添い、安心した生活が地域で暮せるように支援します。」という職員全員で話し合ったホーム理念を掲げ、日々の規範として取組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の新人研修で理念の教育を行い、毎日のミーティングでも《安心した生活とするためには何をするのか》《ゆっくり寄り添い、耳を傾けること》等々を話し合い、確認し、理念に即したケアが実践できているか見直しながらケアに取り組んでいる。理念を玄関内に掲示し、家族の訪問時や家族会・運営推進会議・自治会等においても啓発に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1階がデイサービス、3・4階が高齢者住宅となっており、デイサービス利用者が立ち寄りされたり、法人と連携し地域との交流が盛んに行なわれている。ホームでは月に2回のボランティアによる音楽会・デイサービスでの音楽会等や地域のリサイクル活動への参加また中学校の運動会の見学や地域の中の散歩、将棋の相手等ボランティア活動が継続して取組まれている。今後は入居者の得意分野の一つ雑巾を縫い保育園や小中学校に寄付し、更に交流を図りたいと企画されており大いに期待したい。自治会長・民生委員も運営推進会議の委員として1回目より参加され、ホーム運営に積極的に関わる等協力的である。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設一年目の区切りとして、更にサービスの向上につなげたいと目標を持って職員一人ひとりが自己評価に取り組み、改善シートを使い迷った事などを再三話し合い、改善へ向け取組まれている。	<input type="checkbox"/>	今回が初めての評価であり、運営推進会議の中で改めて自分達のケアを認識し改善への取組む良い機会であったと報告されている。今回の外部評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして、更に改善・向上されることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>開設後2ヶ月より、定期的な運営推進会議が開催されている。2回目からは議題を提示し課題を持って取組まれている。入居者の状況や年間行事予定・サービス評価の取組みについての話し合い又地域ぐるみでの消防訓練等が議題としてあげられ、自治会長・行政・家族代表・会社代表やホーム代表等多くの参加を得て、活発な意見交換が行なわれ、意義深いものとなっていることが議事録より確認できた。地域に根ざす試みとして認知症ケアの勉強会も会議の中で行っている。今後地域の問題を取り上げる事や、高齢者虐待・権利擁護・成年後見制度の勉強会も計画されており、この会議が地域の人々にも役立つように意欲的な姿勢で臨まれている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や市の集団指導参加、認定申請時等の機会に情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後介護相談員の受入れや地域の中で住民の問題や包括との橋渡し等が検討されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月通信紙の中に担当職員が個別に生活の様子を記載し家族に配布している。家族の訪問も多く、近況報告や入居者のやすらぎの姿を写真で見てもらいながら家族と職員のコミュニケーションを密に図っている。又遠方の家族や特変時には電話連絡を行なっている。運営推進会議で職員の紹介をするとともに新職員の紹介は通信紙に記載している。預かり金も訪問時にチェックしてもらう体制が整っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時が意見や要望又相談の機会であると、家族との密接な関係、信頼関係を築き、何でも気軽に話し合える雰囲気心がけ、ホーム運営に反映させている。家族会や運営推進会議も問題提起の場として活用され、意見箱も設置し、意見や要望を収集している。ホームに手紙を寄せられる家族もあり、運営へ反映させると共に職員の励みとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設一年で離職者もあり、法人内での補充が図られている。現在は男女・年齢共にバランスの良い配置であり、入居者へのダメージを防ぐため、新人教育の徹底とケース記録で全体像を把握し、離職者との引継ぎの徹底化を図り、入居者へのダメージを防ぐよう努めている。	○	入居者・家族との信頼関係も良好であり、今後も継続して取組めるよう、職員の定着に向け、ストレス対策等に期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体及びホーム内勉強会、外部研修等様々な機会を作り、外部研修は報告会を持ち、全職員の共有化が図られている。また、日常の支援の中でのスキルアップに努め、お互いをチームとして育て上げるよう努力されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や他の同業者間や系列のグループホームとの交流の機会を通じネットワーク作りや相互の質の向上に取り組んでいる。同業者の見学にも応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と一緒にホームに足を運んでもらい、事業所の見学や職員との会話等により本人・家族の納得により入居となっている。ケアマネージャーと一緒に見学される方もあり、ホームもケアマネージャーとの情報交換や家族と一体となって馴染みの関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	サマリーやアセスメントで得た生活歴や趣味以外に生活の中での観察により残存能力を活かした取組みに努力されている。メガネを渡してみると新聞を読まれるようになったり、手紙を読まれるようになってきている。又、得意分野を活かし雑巾縫いや大正琴を教えらる入居者又職員の励ましから調理へ参加されるなど入居者と職員が一緒になって喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりがどう暮りたいかを本人や家族より聞き取りし、その実現へ向け、できる事・したいことを見守り支援しながらケアに当たっている。家族から昔の話を聞くことや嗜好等を調査等により本人本位になるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を取り入れ、ホーム独自の包括的なアセスメントやモニタリングで得た情報をもとに職員で話し合い、暫定計画としたものを家族と十分に話し合い、家族の思いを反映した介護計画を作成している。又、24時間シートを作成し、ケアカンファレンスにより情報を共有している。介護記録も詳細であり、職員の観察が計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎、さらに入居者の状況に応じて随時の見直しがなされている。主治医との連携のもと入居者の残された課題等が検討され、家族の意見や要望、職員の観察の結果等を反映できる体制に努め、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同事業所は1階がデイサービス、3・4階が高齢者住宅となっており、デイサービス利用者や高齢者住宅の方々との交流や同法人の管理栄養士による栄養指導等多機能性を活かした取り組みがなされている。又受診対応は基本的には家族であるが、出来ない場合は職員が通院介助するなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの以前からのかかりつけ医の継続を基本としているが、往診可能な協力医院や訪問介護・往診歯科も取り入れている。	○	24時間対応可能な協力医院が確保できれば、更に入居者・職員の安心に繋がると思われる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向や医師の判断をもとに、家族と話し合い重度化や終末期の方針を決めている。話し合いの結果等記録として残されているが、家族からの同意書は取っていない。訪問診療や訪問看護も取り入れており、家族の意向を踏まえ、家族と共に入居者を支えていく意向である。	○	家族の意向や話し合いの結果等記録として残されており、今後方針を文書化され、家族からの同意書の受入が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについての話し合いの場を持ち、入居者の生活を把握し、一人ひとりに合った言葉かけや意思を尊重した対応を徹底している。居室に戻られた入居者を外でそっと見守れている姿や入居者の目線での会話また耳元で話をされる姿等誇りや尊厳に配慮した姿勢が窺われた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴・生活パターンやその日の体調等に合わせて支援している。日中もミニパブリックスペースのソファを中心の生活であるが、居室でゆっくりとされる入居者等個々の意思を尊重している。職員の聞き取りでも、できるだけその人のペースに合わせることを念頭にいたケアをしていることが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	開設当初は家族の意向や入居者を知ること又ケアを重視し、法人の厨房の食事としていたが、徐々にホームでおやつ作りからスタートし現在は朝食と昼食をホームで入居者と一緒に作っている。野菜を切ったり、味付けや配膳又男性入居者も見守り役としての一役を担っておられる。個々の嗜好調査も行なわれている。静かな音楽でゆっくりと一人ひとりのペースで食事がなされている。		
	23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否も無く、入浴前のバイタルチェックの徹底により入浴可否を見極めたうえで、個々に声かけをし、午後の支援としている。体調によって清拭やシャワー浴への変更がとられている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
	24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	サマリー・アセスメントで得た情報の他、生活での観察の結果を役割や楽しみごとへと広げ、表情の豊かさや楽しみ・自信へと繋げている。ボランティアにより毎月音楽会も催され、入居者も大正琴を弾かれるなど趣味を生かした楽しみごとを支援している。		
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩等日常的に外出される入居者や計画を立てて外出を支援している。行事の計画も市政便り等をチェックし、季節に応じた楽しみごとを取り入れたり、遠出等がボランティアの支援も受けながら行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援						
	26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、1階及びホームの玄関は開錠している。居室には内鍵が付けられており、入居者の意思により鍵をかけられるようにしている。職員は鍵をかけることの弊害を認識し、寄り添い・見守りのケアの実践である。		
	27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練が法人合同で行なわれている。グループホーム独自にも避難方法や日中と夜間の対策を話し合い、法人とホーム独自のマニュアルを作成し、予防管理組織や自衛消防隊組織を備えている。運営推進会議でもホームの災害時に備えたサポート体制を課題とした話し合いが行なわれている。	○	更に地域の方々も消防訓練への参加を促すなど、地域との協力体制の強化に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、個々の状態によりお粥や二度炊きにしたり、きざみ食やとろみへの変更や湯がき方を工夫し、更に箸やスプーン等も個々に対応している。減塩やカロリー制限の入居者には法人の栄養士に相談したり、食欲減退の方には対応策を家族に嗜好や調理方法を尋ね、栄養士と協議を重ね支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの徹底した中、安全面での工夫が行届き、キッチンを中心にして職員の目が届きやすい設計となっている。2階での生活であるが、ベランダに季節の花や野菜を植えたり、移り行く季節も街路樹から感じる事が出来る環境である。照明も時間帯や天候により職員が調節し、自然光に近く落ち着いた住まいを提供している。共有空間には手作りの折り紙等を貼り、季節ごとに入居者と共に作品を作り工夫している。幹線道路に面しているが騒音も無く、職員の会話やテレビの音量など心地良く聞こえ、澁みない空気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼットと洗面台が備えられ、自宅での生活の延長線であることが家具の配置や持込などにより窺い知れ、生活歴を活かした居室作りに努めている。家族の協力のもと多くの使い慣れた品々が持込まれ、家族写真を飾ったり、作りつけのカウンターに盆栽や花鉢を飾り、居心地良く落ち着いて過ごせる居室である。冷暖房・空調・熱センサー・煙探知機等安全面にも十分に配慮した生活環境である。		